



## SDGs(持続可能な開発目標)

人類の持続可能性が危機的状況にあるとの認識の下、2015年の国連サミットで採択された。「誰一人取り残さない」をキーワードに、地球の繁栄や普遍的な平和、あらゆる貧困の撲滅などを30年までに達成するために、17目標(ゴール)と169の具体的なターゲット、232の指標を設定している。

# コンケングループ

産業廃棄物の一貫処理を手掛けるコンケングループ(岡山市南区浦安本町)は「環境価値創造企業」をうたい、これまで社員対象に続けてきたESD(持続的開発のための教育)研修をベースに、本年度からSDGs(持続可能な開発目標)に関する取り組みに本腰を入れ始めた。事業は多岐にわたるが、重点を置くのが災害対応を核にした事業継続計画(BCP)、そして健康福祉と環境学習を組み合わせた分野だ。

## 防災の視点で事業継続

岡山市南区藤田にあるコンケングループ・藤クリーンのリサイクルセンター(中間処理施設)。大型トラックが次々到着し、解体された建造物のがれきや木材を搬入、各プラントでは重機がコンクリートを破碎し、木くずや廃プラスチックの分別・再生処理、汚泥改良なども

進む。

### ■災害時、住民受け入れ

本業でリサイクル率100%を目指す一方、環境啓発にも力を入れるコンケングループは昨年6月、センター入り口近くにピオトープ(動植物の共生空間)「コンケンガーデン」をオープン。

地元小学生や一般市民の旭理場見学と併せて見てもらい、環境学習に貢献している。

そのガーデン敷地内に今春、屋根に緑化シートを施した小屋がお目見えした。防災資機材の備蓄倉庫で「当センターは周辺より2倍ほど土地が高く、岡山市と避難場所の指定に関する協定を締結しました。大規模災害に備え、住民3日分程度の食料やライフジャケット、ボートなどを収納します」と、コンケン

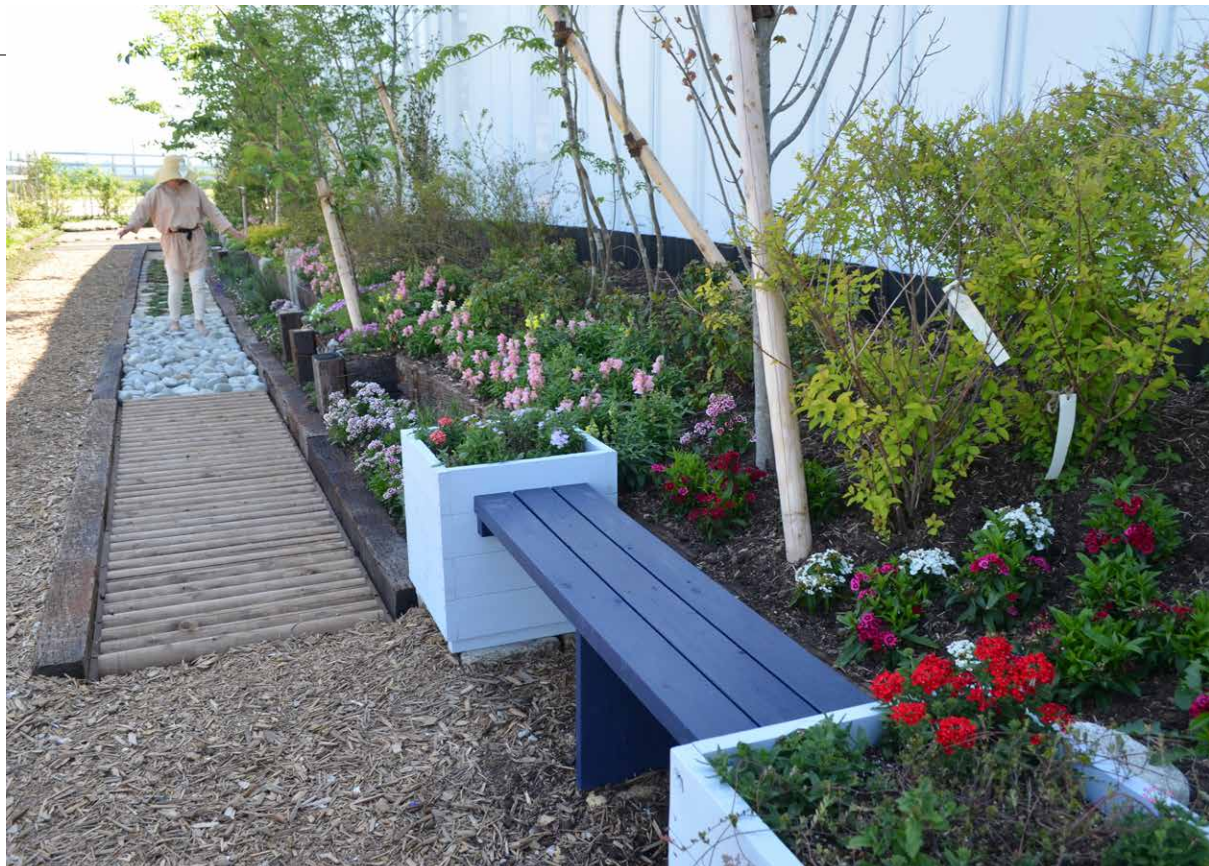
## 環境軸に健康づくり

## セラピーガーデン完成

の小橋諭吉副社長は説明する。災害発生時、グループの事業継続を確保するBCPの一環。同様の備蓄倉庫は、藤クリーン

がなる樹木など花木約200種類を植栽。カツラやモクレンといった落葉高木も多く、適度な木もれ日浴びることで体調を整えるグリーンシャワー効果が得られるほか、丸太や小石などを配しはだして歩ける20mの小道、つる性植物の枝葉が自然な

山県吉備中央町)園長でガーデンセラピストの藤岡成介氏が構想段階から造園に携わった。敷地の半分は岡山市から提供を受け、今後延長も計画。6月6日に住民を招いて歩き初めをするほか、ヨガなどのイベントも随時開く予定という。



約200種類の花木を植栽、健康づくりにつながる設備もあるセラピーガーデン



コンケンガーデン敷地内に設けられた防災資機材の備蓄倉庫

## SDGs通じ地域貢献

コンケングループ代表

近藤 義氏



当社グループが「環境価値創造」を打ち出したのは、他社にまねできないリサイクル技術をアピールし、生き残りをかけたからです。それが環境を守り、循環型の仕組みをつくらないと社会が維持できないという時代の流れと合致。社内でのESD研修をはじめ、現在のSDGsの取り組みにつながっています。17ある目標のうち、11(住み続けられるまちづくりを)、12(つくる責任つかう責任)を重点に事業を進めていく方針です。取り組みを通じて地域貢献できる企業を目指したい。\*迷惑施設、として地元にお世話になっているご恩返しの意味もあります。

今回整備したセラピーガーデンは環境面だけでなく、岡山市の「おかやまケンコー大作戦」にも沿った、健康福祉に貢献できる施設です。また岡山県は自然災害が少なく、大規模災害に対応した企業施設も多くないと聞きます。BCPに関しては、リサイクルセンターの各処理プラントを順次耐震化する予定で、防災面でも万全を期したいと考えています。私どもの施設をできるだけ多くの方に見学・利用していただき、他の企業にもSDGsの取り組みが広がれば幸いです。

## 循環型社会の意義知って

兵庫県立フラワーセンター講師

田丸 和美氏



営利を追求する企業活動の一環としてSDGsを捉える一そのことを基本に、セラピーガーデンのコンセプトや植栽を考えました。リサイクルの会社なので再生砕石や木質チップなど自社製品を最大限利用。古畳マットは徹底した分別で発泡スチロールなどの夾雑物が除かれており、イ草の有用成分が緑化に役立つのではと期待しています。

健康づくりや癒やしにつながるよう、はだして歩ける小道を設けるなどいろいろ工夫しました。200種類もの花木がそろったガーデンは少なく、近くの興陽高校生を招き造園を学んでもらうことも計画。SDGsや循環型社会の意義について知る場としても活用してほしいです。

## 災害時の企業協力に期待

岡山市危機管理室  
危機管理担当課長

岡村 誠氏



災害対応は行政だけでは難しく、住民や事業者の協力が欠かせません。岡山市は近く、コンケングループと災害時協力協定を結ぶ予定です。各処分場の事務所に避難住民を受け入れていただけるだけでなく、重機による土砂などの撤去に加えがれきの処理も可能ということで、非常に心強く期待しています。

市も国の「SDGs未来都市」に認定され、健康寿命の延伸などに取り組んでいます。BCPはSDGsの目標とも合い多くの企業が作っていますが、コンケングループのように地域の持続可能性に資するような地域貢献にまで踏み込んでいる企業は珍しい。先進事例として、他の企業が活動を進める参考となるよう協力をお願いしたい。